

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0871800199 | | |
| 法人名 | 有限会社サンミルクサービス | | |
| 事業所名 | グループホームバンヤンツリー岩井 | | |
| 所在地 | 坂東市岩井5200-29 | | |
| 自己評価作成日 | 2020年8月23日 | 評価結果市町村受理日 | 2021年2月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 認知症ケア研究所 |
| 所在地 | 茨城県水戸市酒門町4637-2 |
| 訪問調査日 | 2020年10月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| 利用者様に毎日笑顔で楽しく過ごして頂けるよう、個々を尊重した介護サービスの提供。 平等な対応を心掛ける。 コロナ禍の状況で制限されていますが、ご家族様も利用者様を支える一人として積極的に関わって頂ける様声掛けを行い、イベントや誕生会等に参加していただいている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| 門扉を開けると、芝生の緑とコスモスなどの花々が目に入る、自宅のような雰囲気のグループホームである。コロナ禍にあっても、天気の良い日はホームの近くを散歩し、四季の移ろいと自然の空気を感じることができている。食事中は静かであったが、食後は笑い声が響き、ひなたぼっこをする方もいた。廊下で顔を合わせると手を振って挨拶してくれる方もおり、利用者は自然体で自由に過ごしている。職員は、制限された中でもできるイベントの企画をしたりして、各々の個性を活かした『オーダーメイドの介護』と、利用者が明るく笑顔のある生活を送れるように支援している。 *新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月に数回の会議にて事業所の理念の共有、個々の対応ができる様話し合い、実践につながるように努めている。 | 法人の理念『個人個人を尊重したオーダーメイドの介護』をホールに掲げ、必要に応じて会議等の議題とし、職員は理解して支援にあたっている。職員は1年毎の管理目標を話し合いで決め、玄関に掲示している。今年は『マスクと距離と思いやり』とし、コロナ禍の中でも利用者が楽しく過ごせるように支援している。職員からは、体を動かすにしても、個人によって目標が変わり、日々の支援内容も違うことを考えてケアしていると聞くことができた。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 市内の公園へ天候を見て車で散策したり、施設周辺を散歩したりしている。 | ご近所とのつきあいは少ないが、地域の運動会や桜祭りなどのイベントに参加していた。現在は外出ができない。看板を見て見学や相談に来たり、電話での問い合わせがあった。近くの方からお花をいただいたことがある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 電話等で相談があった際には、相談に応じ支援方法を一緒に考える様努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催し、運営状況等をお伝えしている。又、参加者より避難訓練に参加したいとの要望があり一緒に訓練を行ったこともある。 | ご近所の方(薬局・ボランティア・社長やケアマネの知り合い)、家族代表、利用者代表、行政職員が運営委員となり、2ヶ月毎に開催していたが、コロナ感染予防の為、現在は市と協議の上、休止している。活動報告等の他に避難訓練をしたり、薬の勉強をしたり、食事作りに参加されたり、運営推進会議を活かした取り組みを行っていた。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2ヶ月に1回運営推進会議を開き市職員、近隣住民との話し合いや「ほっと通信」という手紙を毎月他事業所に送付したりと事業所の実情、サービス等を伝え協力関係を築ける様努めている。 | 市には毎月利用状況を報告し、運営推進会議に参加してもらい、疑問点の相談やがし易い、良好な協力関係を築けている。生活保護受給者の利用があり、生保担当者との連携も図れている。社協主催の事業者協議会に参加し、他事業者との協力関係も築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3ヶ月に1回身体拘束ゼロ委員にて会議を開き話し合い、全職員で身体拘束についての理解を深めている。 | 身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、門扉や玄関の施錠、センサーなど拘束の現状を確認し、年1回は職員研修を行っている。玄関ホールに身体拘束ゼロ対策マニュアルを掲示し、職員の意識付けをしている。現在拘束を必要とする利用者はいない。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待について会議内での勉強会を開き話し合い、虐待についての理解が深められるよう努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在権利擁護を利用している入居者様はおらず、研修で学ぶ機会はあるものの深く理解している職員は少ない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用前には必ず入居にあたっての注意事項、リスク等を説明し入居者様家族等の相談も受けながら理解していただくよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 施設内イベントの際にはご家族様を招待し家族会を開催。その際に意見・要望等を伺う機会を設けている。 | 毎月、かわら版を作成し、家族の意見を反映させ、全員の写真を載せてホームでの様子を知らせている。イベント前に家族会を開催し、運営方針、行事報告等を行っている。意見箱を設置したり、面会時等に意見を伺うようにしているが、特にない。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回ミーティングの場を設け、その中で職員の意見を出してもらい全体で話し合いを行っている。 | 毎月ケアカンファレンスと行事予定・報告、事務連絡等を行うミーティングを開催し、事前に相談事を議題にした意見交換を行い、職員の認識を共通にしている。年1回キャリアパスの面接があり、評価の公平性に繋がるのではないかと期待がある。職員からは、設備等の要望がすぐ対応された、夜勤手当が上がったなど意見が言いやすく、聞いてもらえるとの実感をもっていると聞いた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一年ごとにユニットの所属を替えたり、職員と面談をして働き方について話し合い、勤務日数や時間について調整している。 キャリアパスを実施し、職員自身が課題を把握しその後の業務に反映させている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の経験年数等に応じた研修をすすめている。外部より講師をお呼びして、認知症についてや口腔ケアの研修を実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 坂東市介護保険事業者団体連合会に加入し、分科会には管理者が参加し同業者との交流の機会を設け意見交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者様の生活状況をご家族様や以前利用の介護サービス等から情報収集し、入居者様との会話で安心して生活が送れるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様からの声を傾聴し、不安に思っている事、心配等を少しでも和らげるよう相談に応じ一緒に考えるよう努めている。ご家族様との会話により信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご入居者様、ご家族様の情報、現状態、家庭環境から必要なことを見極め、他事業所と連携できるよう支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご入居者様のできることを職員のサポートを受けながら一緒に行動し、安心して生活が送れるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 季節イベント、誕生日会、面会等、ご家族様が施設に来設の際や、電話等で双方との関係を深めて頂き、協力をお願いもしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご入居者様の要望に応じ、公衆電話を使い友人・ご家族に連絡したり、知人・友人が面会に来たりなど馴染みのある人との関わりが途切れないよう支援に努めている。 | 以前は、近所の方や親戚の方の面会があったり、行きつけの美容師が出張してくれたり、馴染みの関係継続を支援していた。現在は、玄関の公衆電話利用や定期的な訪問美容を利用を支援している。家族との面会は原則自粛であるが、窓越しに顔を見ながら電話で話すことは可能。10万円の給付金支給時には、利用者から家族に問い合わせることが多かった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご入居者様一人ひとりの性格、個性を理解し、孤立しない様職員が間に入り、一緒に行動するよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された後でも、相談等があった際には傾聴・支援できるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の会話の中で、一人ひとりの思いや様子を把握し、カンファレンスの場で全職員と話し合い、意思統一ができる様努めている。 | 日常の会話から聞いた思いなどを記録に残し、職員全体で共有できるようにしている。出前食の時など、メニューから自分で選ぶように支援している。最近、新聞広告を見た利用者から「バナナが食べたい」との声があり、早速購入する予定である。コミュニケーションが取れにくい方には積極的に話しかけるようし、反応をみて思いを察するようになっている。以前のことを家族やサービス事業所の方に聞いたりして、本人をよく知るように心がけている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前面接でご本人様・ご家族様・前施設での生活状態を把握する様努めている。 面会時の情報も参考としている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりのバイタル排泄・睡眠・食事・行動にて日々の変化など現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人様やご家族様には関わりの中で思いや意見を聞き出せるよう努めている。出来そうなプランを立てるようにしている。 | ケアマネがアセスメントを行い、利用者や家族の意向を聞き取ってケアプランを作成。家族には面会時や郵送で確認し、同意を得ている。毎月、サービス担当者会議を開催し、モニタリングを行って次の計画につなげている。ケース記録は、家族とのやり取りの記録や項目欄があり、何を記載したいのかわかりやすくなっているが、プランと連動した記載になっていない。 | 毎月、プランのモニタリングをするなど、ケアプランを意識した支援を行っているが、ケース記録に実態が見えてこない。記録する際には、プランを見えるように置くなど、プランと連動したケース記録になるよう検討することを期待する。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のケース記録にてご入居者様の行動、言動、様子を記入し、カンファレンス等で情報の共有、計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人様・ご家族様の状況に応じた通院や面会等、出来るだけ柔軟に対応する様努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 体調をみながら近隣の散歩や公園での花見散策、イベント等でも慰問や出前など少しでも楽しく生活が送れるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご入居者様、ご家族様の要望に応じ、今まで利用している医療機関の受診や、当事業所のかかりつけ医の往診を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。 | 月1回の往診があり、薬の変更等変わったことがあったときには家族に連絡し、記録に残している。薬の処方内容は家族にコピーを送り、情報を共有している。かかりつけ医受診は家族が同行し、職員は口頭やメモで状態を報告しており、必要な時には職員が同行し、直接話をすることもある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の関わりの中で得た情報や気づきをかかりつけ医に伝え、相談し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病棟看護師に現状を聞いたり面会等で様子や状態を把握し今後の対応について相談している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に事業所の支援についての説明を行っている。看取りの経験はなくご家族様と相談しながら今後の方針を話し合っている。 | 看取りについては、医療行為はできないことを契約時に家族に説明、重度化したときには家族は入院を希望している。夜間緊急時においては、協力医に連絡できるが、救急車に対応することが多い。重度化したときには、職員が医師と協議して家族に伝えている。看取りの経験はないが、研修の必要性を管理者、職員ともに認識している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な救命講習の受講にて実践力を身に付け、又、急変時のマニュアルにて理解を深め対応できる様努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な避難訓練を行いその際に消防署にも協力をいただきながら避難方法を学んでいる。 | 年2回の定期訓練、連絡網の訓練などを行っている。運営推進会議を利用した訓練も行ったが、地域への協力依頼までには至っていない。市のハザードマップでは水害の危険区域に指定されており、玄関ホールにハザードマップを掲示し、GHと福祉避難所との位置関係を見ることができる。系列ホームの避難を手伝ったことがあり、参考にして個人の持ち出しグッズをリュックに入れ、季節に応じて入れ替えを行っている。寒さ対策を含めた備蓄品も用意している。災害別のマニュアルを作成している。避難口にはスロープが置かれ、安全な避難をめざしている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣い、言葉かけに細心の注意を払いながらプライバシーを損ねない様、対応している。 | 利用者への呼びかけには、名字にさん付けを基本とし、本人や家族から申出があったときには下の名前で呼びかけるなど、その方に合った支援を行っている。勤続年数の長い職員は、利用者を尊重する姿勢ができており、新人職員の模範となっている。かわら版の写真掲載、家族の同意を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活のコミュニケーションの中からご入居者様の思いや希望が言える様な対応を心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースで思いに沿って生活をしていただきながら職員の声掛けに応じてくださった際にお手伝いをしていただくなどして対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その時の気候に合わせた衣類選びを一緒に行ったり、出張美容を利用し散髪したりなど支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変え、野菜の下ごしらえや食後の片づけを一緒に行っている。月に1度の出前もご入居者様の要望した食事の提供を行っている。 | 食事のメニューとおかずの材料は食材業者を利用している。庭のニラを収穫して1品を添えることもある。個人のアレルギーマネジメントを把握し、代替食にしている。月1回は出前の日とし、メニュー表を見て自分で選ぶようにしている。野菜の下ごしらえや、片付けなど利用者各人で行っており、笑顔でワゴンで食事を運んでいる姿が確認された。お風呂のない日曜日には、ホットケーキなどのおやつ作りで盛り上がりがある。以前は、職員が楽しく食事できるように話しかけていたが、コロナ禍で食事介助をしながら静かに食事している様子がうかがえた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々に合わせた白米の量や食べやすい大きさにカットしたり、水分摂取量のチェック表を見ながら水分摂取を促したりと対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自菌・義菌に合わせて個々の口腔ケアを毎食後に行っている。一人ひとりの力に応じ、不十分な時は職員が一部介助している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けしたりと失敗しない様促している。 | 日中はトイレでの排泄をめざし、二人介助が必要な方もおむつは使用していない。排泄が頻回な方にも、パターンを把握した声かけ誘導でパットの汚れもなくなった方がいる。夜間の頻回な排泄には、安眠の心配はあるが、利用者の思いに沿って支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表にて最終排便の把握、必要に応じ便秘薬の服用。又、水分摂取の声掛けや牛乳の提供、散歩や体操を取り入れ自然排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 平等に入浴ができるよう声掛けをし、入居者様の意向に沿って支援している。 | 窓から南国風の庭が見える広い浴室があり、週3回の入浴を基本に支援し、毎日入浴される方もいる。ゆず湯やしょうぶ湯など季節の湯を楽しむ。保湿剤や軟膏塗布など皮膚疾患への配慮、個別の足拭きマットによる感染予防、浴室・脱衣所のエアコン設置による温度差などへの配慮が整っている。着替えは職員と一緒に準備する。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご入居者様の体調を見て、休息していただいたり、安眠できるよう天候に応じエアコンを使用したりカーテンを閉めたりと、休息しやすい環境を作っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬ノートや処方箋にて服薬の目的・副作用の理解に努め、バイタルや体調にて症状の変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご入居者様一人ひとりに合わせた日常が送れるようコミュニケーションの中から見出し、散歩や近隣の公園等の散策、将棋等楽しみや気分転換が図れるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節に応じ公園に行き、花見を行ったり、ご家族様と外食したりと支援している。ただ、今年に入りコロナの状況にて制限されていることもある。 | 以前は外食や外出をしていたが、現在は、ホームの周りを散歩するなどの外出に限られている。散歩に行かない時には体操をして体を動かすようにしている。テーブルを外に持ち出し、お茶を飲んだりした。11月には、車でコスモスを見に行くことを計画している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭は事務所にて預かり、ご入居者様の希望に応じ、職員が購入を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時には公衆電話から電話をかけたり、中には携帯電話を使って会話したりと支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じ花を飾ったり、エアコンや加湿器、サーキュレーター等にて室内の湿度・温度を調整して居心地の良い生活が送れるよう支援している。 | 玄関先のコスモスや玄関ホールに飾られたダリアの花が季節とやさしさを演出している。食堂では少人数の利用者が少ずつ離されたテーブルを囲んで静かに食事をされていた。コロナ禍で室内で過ごす時間が増え、体操をしたり、テレビを観たり、テーブルゲームを楽しんだりしている。食後に、陽当たりのよい廊下に椅子を運び、ひなたぼっこをする利用者の姿があった。ユニット間は自由に行き来ができる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | エントランスにテーブル・椅子の設置。ホールにもテレビやソファなどを設置し、ご入居者様本人の思いで過ごせるような環境作りに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今まで使っていた寝具や家具の設置を行い、又、写真や思い出のあるものを飾ったりなど居心地が良い環境作りに努めている。 | 居室には洗面台とクローゼット、ベッドを完備。衣類を入れた引き出しや椅子、ぬいぐるみ、将棋盤、家族の写真、職員からの寄せ書き入り誕生日カード、奥様の遺影など思い思いの品を飾っての部屋造りがされていた。寝具など使い慣れた物を持参するようにしているが、食器は大きさが違うことで盛り付けに不平を感じる方がいて統一した経緯がある。掃除はモップがけなどできる方には声かけをして職員と一緒にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリーになっており、車椅子の方でも安心して過ごせるような環境である。 | | |

(別紙4(2))

事業所名: グループホームバンヤツリー岩井

目標達成計画

作成日: 2021年1月29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|------------------------------|-------------------------|-------------------------------------|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | コロナ禍もあり、災害時の近隣住民の協力を得られていない。 | 近隣住民への協力を得られるよう協力要請をする。 | コロナ禍もあるため、案内通知等により近隣住民への協力依頼を進めていく。 | 12ヶ月 |
| 2 | 26 | 利用者様個々のケアプランが分かりづらい。 | 職員が分かりやすいケアプランを作成する。 | 個々のケース記録にケアプランを貼付し、全職員が把握でき、実践できる。 | 6ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。